

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2371300894		
法人名	医療法人 福友会		
事業所名	グループホーム山守寿 Aユニット		
所在地	名古屋守山区川西1丁目306番地		
自己評価作成日	平成26年 2月10日	評価結果市町村受理日	平成26年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2371300894-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2371300894-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成26年 3月 7日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

静かな住宅地の中、明るく和やかに落ち着いて暮らしていただけるように工夫している。又、同法人の協力病院・老健が近隣にあり、容態急変時や介護困難が発生した場合に即座に対応・相談が出来る体制にあり、家族の方々にも安心していただいている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームの運営母体は医療法人であり、ホームの近隣には、法人の関連医療機関と老健施設が開設されている。そのため受診の際には、ホームから出かけている他に、必要時には往診が行われており、医療面での支援が充実している。近隣に関連施設があることで、夜間の緊急時や非常災害時についても、双方で連携しながら対応することが可能であり、利用者にとって安心して過ごすことができる環境が整えられている。職員の日常支援についても、「リスクマネジメント」「生活上」「接遇」「排泄」等の委員会が組織され、職員が日常の対応について定期的に振り返る機会をつくり、職員間で検討を深め、利用者に対するより良い支援につながるような取り組みが行われている。また、食事についても、食事内容が変化に富んでおり、利用者美味しく食べてもらうような取り組みが行われている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念は施設の見やすい玄関・各フロアに掲示し、スタッフ会議にて毎月の目標・スローガンを施設長、職員共に考えている。	利用者が安心して安全に暮らしてもらえるように、利用者にとってホームが「自分の家」であるように、開設時に理念をつくった理念を掲げている。理念を玄関と各ユニットに掲示し、毎月の目標を立て実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の主婦の紹介によりヤクルトの訪問販売を受け入れ利用している。守山区区民まつりの招待をうけ参加した。	日常の散歩時に挨拶を交わすように努め、地域で行われている区民祭りの際には、ホームからも利用者も参加しており、交流に取り組んでいる。行事の際に地域の方の参加はないが、介護相談等には対応している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム主催の勉強会などは開催していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議時に研修・勉強会。行事等の報告うい毎回おこなっている。その際にご家族からの施設に対しての要望や質問など聞き、サービスへ反映するようにしている。	会議に地域の方が参加していることもあり、会議を通じて、地域の方との情報交換の機会にもつながっている。また、会議の機会を利用した勉強会の取り組みも行われており、運営への反映に取り組んでいる。	会議の席に、地域包括支援センターの方が出席していない現状がある。地域に根付いている医療機関でもあるため、今後の働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特におこなっていない。	市で行われている研修会等の際には、ホームから職員が参加するようにしており、情報交換の機会としている。ホームからは、事故報告等、必要な報告を行いながら、助言等を得る機会としている。	現状、市担当部署、地域包括支援センターとも関わりが少なく、今後に向けた取り組みに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し、職員全員で把握している。入職時研修・施設内研修に組み込まれている。	ホームは、身体拘束を行わない方針のもと、玄関の施錠を行っておらず、職員による見守りの徹底に取り組んでいる。また、新人研修や内部研修の機会もあり、利用者への対応等、職員の資質向上に向けた取り組みも行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時研修・施設内研修に組み込まれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や権利擁護制度を題材にした研修があった場合は参加希望を出している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族・本人共に施設見学を行いつつ、質疑応答をおこない。気に入っていただいた時点で契約の話をさせていただく。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	半年に一度、担当職員より意見・要望を入居者・家族にお聞きし書面に残している。又その要望等をケアカンファレンスにて検討している。	家族会が年1回行われており、家族間の交流の機会をつくっている。アンケートの取り組みや意見箱の設置も行われ、意見や要望の把握に努めている。また、ホーム便りを年4回発行し、個人向けの欄も設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長はケアカンファレンス・勉強会に参加し、その場で職員の意見を聞いている。	毎月の会議の他にも、毎日の申し送りの時間をつくりながら、管理者は、現場職員の意見や要望等の把握に努めている。また、管理者は関連の医療機関の幹部職員でもあるため、意見や要望には柔軟に対応するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の研修・資格試験などの出席・受験に対して推奨している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会があれば積極的に参加できるようにしている。施設内にも月1回の勉強会をおこない、同法人内の研修をうけたり資格者を招き研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市やグループホーム協議会などが主催する研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に入所判定として施設長・介護リーダーが本人に面談し、話の中から要望を聞き出していく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に家族と面接を行い、契約内容や理念を説明し又家族としての本人への希望・要望を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お互いの要望を個々に聞いて、総合支援に結びつけるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	裁縫が得意な方には食堂の座布団を一緒に作成したり、料理が得意な方には味見をしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を促したり、家族との外出・面会を勧めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	暑中見舞いや年賀状など本人から好きな方へ毎回手紙がだせるようにレクリエーションの中に組みこんでいる。	利用者にとって馴染みのある友人が、ホームに訪問して、利用者との交流の機会をつくったり、知人や親族に向けて、ホームで年賀状を出す支援も行っている。また、美容院へ家族と出かけたり、法事や墓参りにも出かけている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション・クラブ活動などで興味を持ったものを通じて関わり合いができるように機会をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も同法人の施設を利用されてみえる方が多いので、出合わせた場合は自分が知りえる情報を家族にお伝えしている。又、質問や聞きにくい事があった場合は仲立ちをしたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望要望を担当職員が普段の生活の中から聞くようにしている。困難な場合はケアカンファレンス等にて職員間でどのように思っているか推測している。	日常的な利用者の意向等に関しては、主に担当職員により把握に努めており、把握した情報等をカンファレンス等の機会に話し合わせ、情報の共有につなげている。また、6か月毎にアセスメントを行っており、情報の更新にも取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントシートを活用し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアカンファレンスにて認知状況・身体状況を確認し職員より暮らしの状況を把握し『できる・できない』シートにより持っている力を見極めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度ケアカンファレンスを開催し、本人・家族の希望・要望を盛り込み、施設長・担当職員・協力病院の看護師、それぞれの目から総合的に介護計画を見直している。	計画の内容は基本3か月毎に見直しており、変化があれば随時の見直しを行っている。計画作成担当者は、家族との話し合いや担当職員からも状態の変化について確認を行いながら、3か月ごとのモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきをカルテに書きとめている。サービスが変わるような変化はケアカンファレンスに提案し、サービス計画の変更をおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス計画書に捉われないことなく日々対応し、ケアカンファレンスにて検討・変更し、当施設にてサービスの限界がみられる場合は同法人施設の連携をいかし対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣への散歩、地域にある喫茶店・食事処・菓子屋の利用、ヤクルト訪問販売など入居者が不安なく利用できる慣れ親しんだ物の活用を心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外に本人・家族の要望があれば、家族付き添いのもと他院へ受診していただいている。	ホームの近隣に法人の医療機関があることで、利用者は定期的に通院に出かけている他に、必要に応じた往診も行われている。他科受診については、家族による受診支援となっているが、ホームから情報提供も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院外来担当看護師にケアカンファレンスへの参加をお願いしており、診察時以外にも入居者への注意事項を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の外来受診時に医師に相談したり、洗濯物の取替えなど施設でおこない本人の状況を毎日確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期についての話し合いは入居時に口頭での話し合いのみとし書類として残してはいない。基本的にはホームでの看取り介護は行わない方針を説明し、重度化などホームでの介護の限界は主治医から家族へ説明されることとなっている。	看取りに関する方針については、入居時に家族とも話し合いが行われ、現状、ホームでの看取り支援は行わないこととしている。運営法人では、医療機関や老健施設を運営していることもあり、法人全体で支援を行う体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。ケアカンファレンス時に協力病院看護師より病状変化などあった場合、個々に合わせた対応のしかたを指導してもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を入居者・職員全体でおこなっている。	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練の実施も行われている。ホーム近隣の医療機関と老健施設があることで、非常災害時には相互の連携が行えるよう取り組んでいる。また、ホーム内に、水や食料等の備蓄が行われている。	非常災害時に地域の方との相互の連携ができるように、運営推進会議の機会に話し合いを深めたり、訓練に地域の方の参加についても期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	『リスクマネジمنت』『生活向上』『接遇』委員会を設置し、職員が常に入居者のプライバシーに配慮しながら支援できるか検討している。	職員は、接遇等の委員会に所属することで、日常の対応や言葉遣い等について、定期的に振り返る機会をつくりながら、利用者の尊厳への配慮に取り組んでいる。また、利用者の自己決定への配慮やプライバシーの配慮にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴日・レクレーション・クラブ活動への参加は本人の意思を尊重している。普段の声かけや話の中から本人の思いを探り出しケアカンファレンス時に検討している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活に合わせたスケジュールで職員は行動し、臨機応変に対応できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問理容の活用。お気に入りの美容室への外出。毎朝本人と衣類の選択をおこない、季節にあった衣類の更衣をおこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々にあった食事への係わり(食材の搬送・野菜の下処理・味見・食器かたづけ・食器拭き)をお願いしている。	食材は、関連の医療機関から配達され、調理は基本ホームで行われている。利用者も下ごしらえや片付けに等に参加し、食事の際には職員も一緒に行い、会話を楽しんでいる。また、おやつ作りの機会やミキサーやトロミ等の提供も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホーム日誌に摂取量を記入している。糖尿の方が主食の量制限を行い、嚥下に不安がある方はとろみ剤を使用している。摂取量の減少がみられる方は主治医より栄養剤が処方されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	外出・帰宅時のうがい。毎食後の口腔洗浄剤によるうがいの声かけをおこなっている。又口腔ケア委員会を設置し、個人にあった口腔ケアに心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄委員会を設置し、個々の能力にあった排泄ができているように心がけている。	利用者の適切な排泄につながるように、排泄委員会が設置されており、職員間で定期的な話し合いが行われている。職員の取り組みを通じて、トイレでの排泄につながったり、昼と夜でおむつを使い分けたり、便秘予防につながっている方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各自に合わせた排泄管理(運動・薬・時間誘導)をおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低2回/週以上なら時間も回数も本人の要望があれば受け入れている。3種類の浴槽(一般浴・介護浴・シャワー浴)は身体状況にあった入浴方法にておこなっていただいている。	入浴については、週2回となっているが、希望によりそれ以上の回数も可能であり、一人ひとりに合わせた支援を行っている。重度の方には、関連老健施設の機械浴での入浴も可能である。また、入浴剤や季節の柚子湯や菖蒲湯も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由時間は休息が安心してとっていただける環境に心がけている。又、夜間に問題がある方は介護計画に取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診時に薬に対しての服薬情報をもらい、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月1回の行事・週2回のレクリエーション・クラブ活動を提供し、日々の暮らしが楽しく過ごせるよう心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の店には職員同行にて外出し、喫茶店・花見・食事会など外出の機会をつくっている。ADL向上と社会との関わりがなくならないように病院へリハビリ受診をしている。	天候等をみながら近隣の散歩に出かけたり、関連の医療機関への受診を兼ねて外に出る機会をつくっている。また、季節に合わせた花見等の機会をつくったり、希望に合わせて、近くの店に買い物に出かけることもある。	今後に向けて、外出行事をつくりながら、利用者が外に出て楽しむことができる機会を増えることを期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は入居時に家族と本人に確認し、本人にあった管理のしかたをしている。金銭を保持しないで買い物に職員が同行すれば後払いにて支払っていただくよう家族に承諾を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話の設置あり。年賀状・暑中見舞いなど自分の好きな所へ自筆にて出せるようレクレーションに組んでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調度品・食器類はあえて新品で揃えるのではなく、中古品・頂き物などで家庭の雰囲気を持たせるようにしている。施設の壁には季節感ができるものを入居者の方に作成いただいている。	リビングは、明るい雰囲気であり、利用者はゆったりと過ごすことができる環境をつくっている。廊下にはソファを設置しており、他の方と離れて過ごすこともできる。また、季節に合わせた飾り付けを行ったり、利用者の作品も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内のチェスト以外は各自持ち込み自由となっている。	居室には、使い慣れた家具や椅子等が持ち込まれており、個性のある居室作りに努めている。また、鏡を持ち込んでいる方もおり、利用者がおしゃれを楽しみながら過ごすことができるような取り組みも行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内の傾斜部分には手すりを設置している。洗面台やトイレは車いすでも利用できるようになっている。		